

第1回 武蔵野市男女共同参画推進委員会会議要録

日 時	平成24年10月5日（金） 午後7時～9時
場 所	市役所 412会議室
出席者 (敬称略)	委 員・・・阿部敏哉、伊藤隆子、小川拓哉、栗原毅、権丈英子、春原由紀、 竹内寿恵子、長尾亮、野田順子、原利子、二子石薫、松井滋樹 市 側・・・会田副市長、市民活動担当部長、 事務局・・・市民活動推進課男女共同参画担当職員
議 題	1 委嘱状交付 2 副市長あいさつ 3 自己紹介 4 委員長選任及び副委員長指名 5 議題 (1) 男女共同参画推進委員会運営に関する基準について (2) 男女共同参画推進委員会(市民会議)の経緯について (3) 第二次男女共同参画計画及びアクションプランについて (4) 平成23年度第二次男女共同参画計画推進状況調査報告書について (5) 会議のあり方と今後の日程について (6) その他
議事要旨	1 各委員への委嘱状交付 2 副市長あいさつ 3 各委員及び事務局職員の自己紹介 4 資料1に基づき、武蔵野市男女共同参画推進委員会会議設置要綱の説明と、 委員長選任及び副委員長指名 委員長・・・権丈英子委員に決定 副委員長・・・春原由紀委員に決定 5 議題 <事務局> ■資料3に基づき、男女共同参画推進委員会運営に関する基準について説明 <委員> ■傍聴についてお聞きしたい。昨年、市民活動の基本計画の委員会を傍聴したが、委員会の最後に傍聴者の意見を聞く場があった。この委員会ですべてのことではできないのか。 <事務局> ■時間などの進行具合で可能ならばと思うが、基本的には控えていただければ

と思う。

<委員長>

■基本的には、委員の皆様のご意見をお伺いするところなので、傍聴の方には文書でお願いしたい。何回か委員会を行っていく中で進行上差支えがなく、そういう機会が適切だと判断されれば、皆様に伺って決める形が良いと思う。

<事務局>

■資料4に基づき、男女共同参画推進委員会（市民会議）の経緯について説明

■資料5に基づき、第二次男女共同参画計画の枠組みについて説明

■資料6に基づき、男女共同参画推進の主な動きについて説明

<委員>

■武蔵野市男女共同参画庁内推進会議の機能性と、庁内各課の協力状況についてお聞きしたい。

<市民活動担当部長>

■庁内推進会議幹事会のメンバーは男女共同参画計画にかかわる主管課の連携をとるために、関連の総合政策部、人事関係、労働関係で生活経済課、福祉の関係、また子ども家庭課、児童青少年課などで会議をおこなっている。市民会議でも進捗を見ていただいていたが、庁内でも相互に関与し合うとの趣旨でこの推進会議をつくっている。年2回ほど開催し、アクションプランの策定やさまざまな委員会の中の男女比率などの資料を出し意見を交換している。いろいろ庁内連携を図り、例えばDV庁内連絡会議を設置するなど少しずつ進捗はしているが、進んでいないところもあるのではないかと思っている。庁内推進会議幹事会の上に、副市長を頭に各部長をメンバーとした推進会議を年2回ほど行っており、推進会議幹事会の中身を受け止めて連携を図っている。

<事務局>

■第五期長期計画で地域リハビリテーションという考えを持ち、それぞれの部署を縦割りではなく横串で通すような考えを打ち出している。今後、それぞれのパートがより連携して進めていく雰囲気づくりは強まると思う。

<委員>

■第二期市民会議意見書の27ページに、庁内推進会議と市民会議がともに情報や課題を共有しながら、しっかりとした連携体制をとるための仕組みづくりを図ること、というのがある。これは庁内推進会議と市民会議とで意見交換をぜひしたいと、意見書をつくる前に話し合っていたが、結局できなかった。全員顔を合わせて話し合うことは難しいかもしれないが、例えば委員長、副委員長が庁内推進会議で話し合いの機会を持つなど、何か接点を持って意見交換ができるような形がつかれるといいのではないかと思う。

<委員長>

■貴重なご意見で意見交換の場ができればよいと思うので、事務局と調整させていただきたい。

<委員>

■推進状況調査報告書の4ページに、保育・児童施設の機能の充実と待機児童の解消というところがあり、完了したように書いてあるようだが、今後はどのようにしていくのか。学童の問題は女性が仕事をしていく上で、すごく大きな問題だと思っているので、お聞かせいただきたい。

『そよ風』については非常に充実していると思ったが、vol.40、41は6ページあるが、最新号のvol.42は4ページになっている。これは逆行しているのではないのかと思った。

また、先進諸国の中で日本の女性はエグゼクティブの女性たちが非常に少ないという問題がある。それに対して先進諸国はこういう試みをしているから、女性が働けるのだということがあるが、日本は、特に何も行動が起きていないということが意外だ。

日本女子大で平塚らいてう研究会というのがあり、フェミニズムの視点で勉強する機会が多い。先日フランス女性史を取り上げたが、フランスもかなり男女の役割分担が強い国だが保育所は多いと聞いた。私は保育所で大変苦労した経験があり、保育所がないことは働けないこととつながっていると思うので、どのようになっているのか聞きたい。

<事務局>

■進捗状況調査報告書の4ページに子育て支援策の充実の23年度事業実績というところがある。23年度の事業実績のところは長年懸案であった学童の校内移転というものを一つ実績として挙げた。その校内移転については完了したという表現をしているだけで、これをもって全部、学童の事業が完了したというわけではない。

24年度事業予定に、学童も含めた放課後施策を充実させようということで、小学生の放課後施策推進協議会を設置し、より充実した放課後施策を進めていく予定である。保育も学童も本市の子育て施策の重要な課題であり、今後も充実する状況にある。

<委員>

■武蔵野市は子ども施策を福祉施策から外し、独立した子どもプランを立てているので、苦しいところがある。子ども施策を今後も子ども施策としてやるのか、もっと母親や父親やなどと絡めてやっていくのかも課題になってくると思う。

<委員長>

■この点に関しては、今後さらに検討していければと思う。

<事務局>

■資料7に基づき、会議の進め方について説明

■資料8に基づき、推進委員会の審議予定と日程について説明

<委員長>

■意識調査については、ここで議論したことがどの程度反映できるのか。決まったものを少し変えたり、1つ2つ追加する形なのか。

<市民活動担当部長>

■経緯を見る必要があるものや、社会情勢で追加するもの、削除するものがあると思う。まずコンサルさんに見てもらい提案をいただこうと思っている。質問項目が増えると回収率にかかわるので上限の範囲内で検討することと思う。

<委員>

■ここ5年あまりの社会情勢の変化、また、身近な我々の生活の質も変わってきている。リーマンショック以降、非正規労働者の増加のこと。高齢者のみならず若い親子や介護している独身女性と親などの孤立死のこと。こうした状況を構成員全員できちんと踏まえ、5年前にやったものをベースにというより、5年間の変化の中で聞かなければいけないことをきちんと認識する必要があると思っている。まずは、我々が共通認識を持つために社会情勢の変化などを勉強しなければいけないのではないかとと思っている。

<委員長>

■そうした共通認識を増やしていきたい。次回は共通認識を冒頭に入れたい。

<委員>

■市民を対象とした意識調査をおこなうのは当然だと思うが、庁内の意識調査はおこなわないのか。

<事務局>

■項目や分析が複雑でなければ実施することは可能である。検討させていただきたい。

<委員長>

■委員の問題意識や計画に反映させるべき意見等があればお願いしたい。

<事務局>

■DV防止基本計画をこの計画の中で位置づけていただきたいと思います。国で配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律、通称DV防止法の中で、市町村におけるDV防止基本計画策定が努力義務となっている。しかし、DV防止基本計画を単独で策定するよりも、男女共同参画計画の中で1つの章立てのような形にすると、より関係施策の関連性などが明確にできるのではないかと知っている。その後のチェック体制も一定の推進体制ができていますので、随時進行管理ができると思う。ぜひご検討いただきたい。

<委員>

■昨年の市民会議に参加し、武蔵野市には男女共同参画基本条例がないことを知っ

た。条例の意味などいろいろ勉強させていただき、とても大切なものだと思ったので、むさしのヒューマン・ネットワークセンター運営協議会の有志でつくっている条例を考える会の記録集を資料としていただけないか。また、条例について検討組織の設置がまだされていないようだが、今年は少し取り扱ってもらえたらいいのではないかと思っている。

<委員長>

■条例を考える会の資料はあるのか。

<委員>

■条例を考える会はいくまで勉強で、記録集を資料として出すのは慎重にしたい。

<委員>

■基本的には弱い立場の方たちのことを考えたいと思っている。まだ十分考えられていないのは男性相談で、男性が相談したい場合に窓口がない状況だ。もう1つは、性同一性障害など性的マイノリティーの方たち。先ほど、副市長の話の中に多様性を認め合う社会を目指すという話もあったが、計画というレベルで書き込むことができないのかと思う。また、社会的な孤立、特に母子家庭、父子家庭の方たちの事は優先的に考える課題だと思う。

評価というのが、第二期市民会議の課題として挙げられていた。今後に向けてどういう形の評価があり得るのかということも、議論できればと思っている。

<委員長>

■具体的な形で客観的に評価できるようなものをつくっていくのも一つだと思う。また、それも含めて総合的に考えていくということも必要だと思う。

<副委員長>

■東日本大震災で被災地から転入してきた家族は、家族全体で来ている人よりも、むこうにお父さんが残り、母子だけで避難という家族が結構あるようだ。男女共同参画とどこかでつながると思う。

<事務局>

■避難者への市の対応について資料があるので、それから協議していただければと思う。

<委員長>

■次回以降の日程について、第2回は11月1日（木）、第3回は12月3日（月）、第4回は1月17日（木）として、会場は後日事務局よりお知らせする。

—了—

次 回

- ・ 日時：平成24年11月1日（木）19：00～
- ・ 会場：武蔵野スイングホール・スカイルーム